

VOL.12

MINI

つながる医療、見える未来  
三重大学病院広報紙 ミニ ミュース

# MEWS



TAKE FREE

2021.7

## 一人ひとりの患者さんに最善の看護を 三重大学病院 看護部

当院の看護部の理念は、「一人ひとりの患者さんに最善の看護を提供する」。目の前の悩める患者さんのために何ができるのか、最善とは何かを常に考えて、看護にあたることを大切にしています。当院の16ある病棟のうち、今回は9階南病棟と10階北病棟で看護師の仕事や思いについて聞いてみました。

### 10階北病棟

力を入れているのは、“意向に寄り添った看護”

「一人ひとりの患者さんに最善の看護」を10階北病棟ではどんな風に実践していますか。

竹内美幸 10階北病棟 師長(以下、竹内)：10階北は、循環器内科、腎臓内科、糖・内分泌内科、膠原病リウマチセンターの患者さんが入院される病棟です。心筋梗塞など症状が顕著で、急変しやすい急性期疾患の他、慢性心不全、腎不全、糖尿病など、生活習慣が影響して、長期で治療を必要とする慢性期疾患の患者さんもたくさんみえます。そんな病棟で特に力を入れようとしているのは、「患者さんの意向に寄り添った看護を提供する」ことです。

10階北病棟でそこを目標にした理由は何でしょうか。

竹内：特に慢性期疾患の場合、退院後も血圧・食事・運動など自己管



<10階北> 竹内美幸(写真右)：10階北病棟 師長  
4つの病棟と中央手術部を経て、2016年から10階北病棟師長に。  
木村友美(写真中央)：慢性心不全看護認定看護師  
患者数が増えている心不全をもっと広い視野で見たいと認定看護師に。  
西尾美咲(写真左)：看護師  
患者さんの視点で考える！看護師として日々成長を目指す。

理が必要です。病気と上手くつきあいながら、生活習慣を見つめ直してもらうために、一人ひとりの患者さんやご家族のご意向をしっかり聴き、患者さんの生活に合わせて支援する看護が必要だと考えているからです。

患者さんのご意向はどう聞いていくのですか。

西尾美咲 10階北病棟 看護師(以下、西尾)：入院時や検査の時など機会を作っていますが、日々病室に伺ったときの話にも注意しています。忙しいときでもできるだけ患者さんと話をするようにして、治療や今後についての思いなど、患者さんの本当の声を聴けるように心がけています。そして、可能な限り治療や看護で応えられるようにチームで共有していきます。

目標とする看護の実践には長期的で幅広い視点が求められますね。

竹内：退院後も外来に通われる方が多いので、患者さんの生活習慣を見直すために他職種や外来の看護師ともしっかりと連携しています。その一つが、当病棟で毎週行っている心臓リハビリカンファレンスです。医師、病棟や外来の看護師、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、栄養士、薬剤師、臨床心理士などが一緒に、患者さんごとにどのような指導や介入がベストなのか検討しています。今年度は、慢性心不全認定看護師を中心に心不全についての学習会や外来との連携も進める予定です。こうした取り組みを他の疾患でも進めていきたいと考えています。

### 9階南病棟

看護で大切したいのは、“その人らしさ”



<9階南> 野津英香(写真中央)：9階南病棟 師長

これまで6つの病棟を経験、2020年12月、9階南病棟の師長に。

田中 萌(写真左)：摂食・嚥下障害看護認定看護師

「やってよかった、やってもらってよかったと思える看護」が原点。

福田 愛(写真右)：看護師

患者さんの心に寄り添う気持ちを大事に。次世代を担う若手の一人。

9階南病棟でも目指している看護の形というものがありますか。

野津英香 9階南病棟 師長(以下、野津)：9階南病棟には、肝胆脾・移植外科、消化器・肝臓内科の患者さんが入院されています。手術や抗がん剤治療をされる方が多いですが、肝不全やがんの終末期を迎える患者さんもみえます。その中で、特にこの病棟では「病気を抱えて生きる患者に寄り添い、その人らしさを大切にした看護を提供することを目指しています。

そこに行きついた理由は何でしょうか。

野津：患者さんやご家族は多くの不安や悩みを抱えられています。また病状、悩み、生活背景、考え方など、みな同じではありません。不安を抱えているときだからこそ、その人らしさを尊重してはじめて、患者さんの闘病を心身ともしっかり支援していくのではないかと私たちを考えています。

のために患者さんと接するときに心がけていることはありますか。

福田愛 9階南病棟 看護師(以下、福田)：闘病の中で、患者さんご自身も自分らしさを持ち続けることは簡単ではないと思います。だからこそ看護師が患者さんの身体的、精神的な苦痛となる原因がないかを見て、出来る限り患者さんの心に寄り添えるよう、私自身も患者さんに接するように心がけています。

目標とする看護に向けて取り組んでいることはありますか？

野津：多職種や専門チームとの連携は不可欠です。医師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、リハビリテーション技師、栄養士など他職種との話し合いを重ね、入院中だけでなく退院後もできるだけその人らしい生活が送れるよう検討しています。

また、この病棟には病状から長く食事をとれない患者さんもみえます。食べることは生きる力になると思うので、摂食・嚥下障害看護認定看護師と連携して、自力での飲食に向けた専門的なサポートにも力を入れています。



毎日の綿密な情報共有は安心安全な医療の基本

### さらに高い専門性で看護の幅を広げる認定看護師

田中さんと木村さんは認定看護師として看護にあたっているんですね。  
＊認定看護師については3ページもご参照ください。

田中萌 9階南病棟 認定看護師(以下、田中)：私は、摂食・嚥下障害看護認定看護師として、安全に口から食べ、飲み込めるようにリハビリをはじめとしたサポートを行う分野の認定看護師です。食事は栄養摂取のためだけでなく、コミュニケーションのツールだったり、趣味やストレス解消法だったり、生活していくこと、つまり“生きること”ですよね。“食べる”ことを支えるのは、その人らしい生き方を支えることにもつながるのではないかと思いながら看護にあたっています。

木村友美 10階北病棟 認定看護師(以下、木村)：私は、慢性心不全看護認定看護師として、良くなったり悪くなったりを繰り返しながら徐々に悪化する心不全特有の症状や課題に基づいた、患者さんやご家族に対する専門的なケアを行っています。

実は今、心不全の患者数は国内で増加傾向にあります。こうした背景もあって、これからは入院病棟内だけでなく、外来、そして地域を線でつないで、患者さんの思いを尊重した療養生活をサポートできるような体制づくりも行っていきたいと考えているところです。



9階南病棟のみなさん

認定看護師として、実際にはどんな看護を行うのですか。

田中：口から食べることが難しくなる状況はいろいろあります。私はそんな方の飲み込みの力を評価して、安全に食べられるようサポートしています。絶食も口の中の状態悪化の原因の一つとなります。以前も手術後に不安定な全身状態が続き、長く絶食だった患者さんがみえ、初めてお会いしたとき「今の状態では口から食べられるようになるのはかなり難しい」という印象でした。でも、その患者さんの病状から考えると、全身状態が改善すれば、食べられるようになる可能性が高かったので、地道に口腔内の衛生状態を改善することを続け、食べる訓練を行えるまでになりました。専門・認定看護師がそれぞれの専門性をいかして、長期的にその方らしさを取り戻せるような看護をもっと提供していくといいなと思っています。

木村：私の場合は、心不全と付き合っていくための生活、食事、運動などの面から指導やサポートを行っています。心不全で何度も繰り返し入院をされていたある患者さんは、半年以上入院することなく、外来通院で元気な姿を見せてくれています。この方は、入院中から、退院後の生活を想定し、どう病気と共存したらいいのかについてとことん話し合った患者さんで、一緒に考えた対策をずっと実践してくださっているんです。こんな風に、退院をされた後の患者さんの不安や目標までサポートしていく看護をこれからも目指していきたいです。

### 若手看護師を支える心に残るエピソード

最後は、若手の看護師から心に残るエピソードを一つ聞かせください。

西尾：ある糖尿病の患者さんは、かなり症状が進行してから、手術に向けた血糖コントロールを目的として入院されてきました。最初、その方は治療に消極的だったのですが、食事療法やインスリンの打ち方など専門的な治療をわかりやすくお伝えし、さらに運動療法も一緒に決めてもらうことで前向きに取り組んでいただけるようになりました。合併症など多くの課題を抱えた方でしたが、1つずつ克服し、最終的に血糖値は手術可能なレベルまで下がり、退院後に向けた対策にもつなげていきました。時間がかかるても、課題が出てきても、必ず患者さんと一緒に考え、決めていくことの大切さを改めて学んだエピソードです。

福田：長期入院の影響で心身の機能に低下が見られた患者さんがおられて、何かできることはないかと、日々、看護師にできる関節機能運動について調べたり、清潔を保つケアを心がけたり、またご家族にも患者さんの好きなことなどについて度々お聴きし、話しかけを続けていました。自分が十分な看護をできているか不安でしたが、その患者さんが転院されるとき、ご本人やご家族から「ありがとう」と言っていただけました。肝胆膵の手術は長時間に及び、患者さんの身体的な負担が大きい場合が多いです。大変な闘病生活をどうやって支えていけるか迷うこともありますが、こうした「ありがとう」という言葉にいつもすごく力をもらっています。

820の総力

三重大学病院の看護部は、看護師820名を抱え、県内の病院の中でも最大規模。16の病棟、外来診察室、手術室、検査室などに配置され、24時間365日、一人ひとりの患者さんに最善の看護を提供できるよう、820の総力をあげて取り組んでいます。

全体で見ると、経験10年未満の若手と10年以上のベテランがおよそ半分ずつ。経験豊かな看護師も全体の約1割となり、その数は年々増加中です。

## 高度な看護をリードする専門看護師

専門看護師とは、専門性の高い知識と技術を持ち、高水準の看護ケアを提供できるとして、厳しい条件をクリアし日本看護協会から認められた看護師のこと。2020年12月末現在、全国で2,733名のみが認定されています。

当院には、現在「がん看護」「母性看護」「小児看護」「急性・重症患者看護」という4領域で計7名の専門看護師がいます。看護現場だけでなく、家族を含めたトータルケア、患者さんと医師や関連機関との調整、教育、研究などにも役割を果たす看護のスペシャリストとして、高度かつ先進的な三次医療に対応する当院の看護をリードしています。

# 三重大学病院の 看護部って？

特定機能病院である当院には、様々な病気や症状の患者さんが来られます。820名の看護師がそんな患者さんごとに最善の看護を提供することを目指しています。

## チーム医療の牽引役

当院が重視する職種や診療領域を超えた「チーム医療」。患者さんの最も近くで長い時間接する看護師は、チーム医療の中心的な役割を担っています。一人ひとり違う患者さんの思いや希望をくみとり、状況を判断した上で、必要なスタッフを巻き込んだ最善のチーム医療が行われるよう環境を整えることも当院の看護部の重要な任務です。

例えば、緩和ケアを必要とされている患者さんには、ご自身やご家族がどのように過ごしていきたいかなどを丁寧にお聴きし、それに応えられるチームを医師、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなどとつくり、それぞれの専門知識や情報を持ち寄って、出来る限り患者さんの思いに応えられるケアを提供できるよう進めています。

## 12領域の認定看護師

認定看護師は、特定の看護分野における熟練した看護技術と知識で、患者さんやご家族に高水準な看護ケアを提供できる看護師。こちらも日本看護協会が厳しい条件を基に認定しています。

当院には、「感染管理」「救急看護」「手術看護」「集中ケア」「新生児集中ケア」「皮膚・排泄ケア」「がん化学療法看護」「緩和ケア」「不妊症看護」「認知症看護」「摂食・嚥下障害看護」「慢性心不全看護」という12領域で計20名の認定看護師がおり、特別なケアが必要な患者さんの看護を担っています。

## 新型コロナウイルス感染症と看護師

コロナ禍では、看護師を取り巻く環境にも様々な変化があり、感染症におけるチーム医療や看護のノウハウを蓄積する機会でもありました。救命救急・総合集中治療センターでは、三次救急と新型コロナウイルス感染者受け入れに同時対応できるよう、看護師も常にマスク・手袋・キャップ・ガウン・ゴーグルというフル装備の防護具をつけています。4月から5月にかけては、医療がひつ迫していた大阪などの医療機関に高度なケアが提供できる当院の看護師が派遣されました。感染症における県境をまたぐ協力は当院にとっても新しい取り組みでした。

また、現在開設されている三重大学内の新型コロナワクチン集団接種会場での接種、接種後の観察、急変時の対応も当院の看護師が担当。安全な運営に向けて多職種との連携、シミュレーションをしっかり行った上で実施しています。

## ある病棟看護チームの24時間

最も近くで長い時間患者さんに関わるのは、病棟の看護師。

各病室をまわって患者さんの状態を確認し、一人ひとりに合ったからだと心のケアを行っています。病棟により、二交代制や三交代制を取っていたり、ラウンドのスケジュールやケアの内容に多少違いがありますが、当院の病棟では365日、24時間体制で看護を行っています。ある病棟の看護チームの一日を主な動きからちょっとご紹介します。



8:30	申し送り・朝礼	夜勤スタッフから申し送りを受け、日勤スタッフで朝礼を行います。安全な看護が提供できるように特に注意が必要な患者さんへのケアなど、日勤スタッフで引継ぎ事項をしっかり確認します。
10:00	午前のラウンド	入院患者さんの状態を確認しに、病室をまわります。身体状況だけでなく、話しぶりなどにも注意して、患者さんのささいな変化を見落とさないように。ラウンド以外にも、状況に応じて病室を訪ね、必要なケアを行っています。
11:30～13:30	お昼休み	11:30から13:30の間に交代でお昼休み。 お弁当派が多数。仕事柄、みんな結構栄養バランスを考えています。 
13:30	カンファレンス	患者さんに安楽に過ごしていただけるよう、手術前後の患者さんや特別なケアが必要な患者さんの状況や対策について毎日看護チームで話し合い、どのような看護が最善かつ必要なか検討します。医師や薬剤師など多職種で行うこともあります。
14:00	午後のラウンド	入院患者さんの状態を確認する定期的な午後のラウンド。午前中に気になったことがあれば、午後に改めてチェック。検温や血圧検査しながら、お昼をちゃんと食べられたかなど、患者さんのご様子を伺います。個別にご相談を受けたりすることもあります。
16:30	申し送り	日勤スタッフから夜勤スタッフへバトンタッチ。 スタッフの人数が少なくなるため、特に注意が必要な患者さんについては、念入りに情報を共有し、情報確認を徹底します。 
19:00	夜のラウンド	夜は不安が強くなる患者さんも多いので、できるだけお話しするよう心がけながら、病室をまわります。 夜から早朝にかけても、ナースコールがあればすぐに病室に駆けつけます。
21:00	消灯	消灯時間は21時。みなさん、ぐっすり眠れますように…と願いながら、病室をまわり、消灯します。患者さんの中には、入院してすぐは21時という早い消灯に慣れず、すぐ寝付けない方もいらっしゃいます。 
0:00～深夜	深夜のラウンド	患者さんを起こさないように何度もそっと病室をまわります。疲れなつたり、体調を崩している患者さんがいないか、点滴に問題はないかなど、お一人ずつ様子を見ます。夜中もナースコールに対応している他、体調が悪い患者さんがおられたら、当直医師と連携するなど、24時間看護を徹底しています。
6:00	早朝のラウンド	当院が面する伊勢湾から大きな朝日が昇る時間。 「夕べはよく眠れましたか?」「今日は手術、ご不安はないですか?」「手術翌日、今日から少しずつ歩いてみましょうね」など、今日も安心して過ごしていただけるようできるだけ患者さんに声をかけながら、早朝ラウンドを行います。

（肝胆脾・移植外科医師 岸和田）  
めて感謝の思いを再認識する今号です。  
護師の力があつてこそ。医師としても改  
い変化に気づき、サポートしてくれる看  
外科医の手術も、患者さんの心身の小さ  
（9階南病棟師長 野津）  
これからも皆様に安心して頂ける看護が  
提供できればと思っています。  
護」と向き合う機会になりました。

### 編集後記

へえー! そうなんやあ!  
**三重大学病院トリビア**

vol.11 ヒヨコにとっての大きな力

当院では、看護師一年生の胸だけに付いているバッヂがあります。ヒヨコをデザインしたそれは、新人の証。バッヂが取れるまで、先輩がしっかりとサポートし、患者さんに安心して頼ってもらえる看護師を目指します。みなさんと一緒に成長を見守っていただけと、ヒヨコたちにとって何よりも大きな力になります。

## 国立大学法人【特定機能病院】 三重大学医学部附属病院

三重大学病院広報紙「ミニ ミュース」vol.12 2021年7月発行 無料

TEL:059-232-1111(代表)

発行:三重大学医学部附属病院 〒514-8507 三重県津市江戸橋2丁目174番地

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/> 広報センターTEL:059-231-5554

本紙掲載の文章・記事・写真等の無断転載はお断りします。本紙に関するご意見・ご感想は大学病院広報センターへお願いします。



#### お知らせ

感染症対策、  
レシピ、  
防災情報などを  
UPしています  
でご覧ください!



病院公式YouTube

フェイスブック